

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
定時株主総会 3月中
株主名簿管理人 日本証券代行株式会社
特別口座管理機関 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所 日本証券代行株式会社 本店
公告方法 電子公告により行います。
ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。
なお、電子公告は当社ホームページに記載しており、そのアドレスは以下の通りです。
<http://www.optorun.co.jp/>

ホームページのご案内



トップページ
<http://www.optorun.co.jp/>



IR情報ページ
<http://www.optorun.co.jp/ir/>



株式会社オプトラン

〒350-0801 埼玉県川越市竹野10-1
TEL: 049-239-3381 FAX: 049-239-3382



第19期株主通信

2017年1月1日～2017年12月31日



IoT時代を切り拓く

株式会社オプトラン

証券コード：6235

最新の光学薄膜テクノロジーを活用 新機能成膜実現でIoTにも貢献

私たちは、「オプトナノテクノロジーによる光学薄膜成膜のプロセスソリューション提供」を事業コンセプトにしています。光学薄膜・真空技術などの分野で、グローバルな市場をリードし、先端的技術を反映した製品やきめ細かいサービスを提供することで、新たなIoT社会への貢献を目指します。

オプトランの提供価値 ~光学薄膜の必要性~

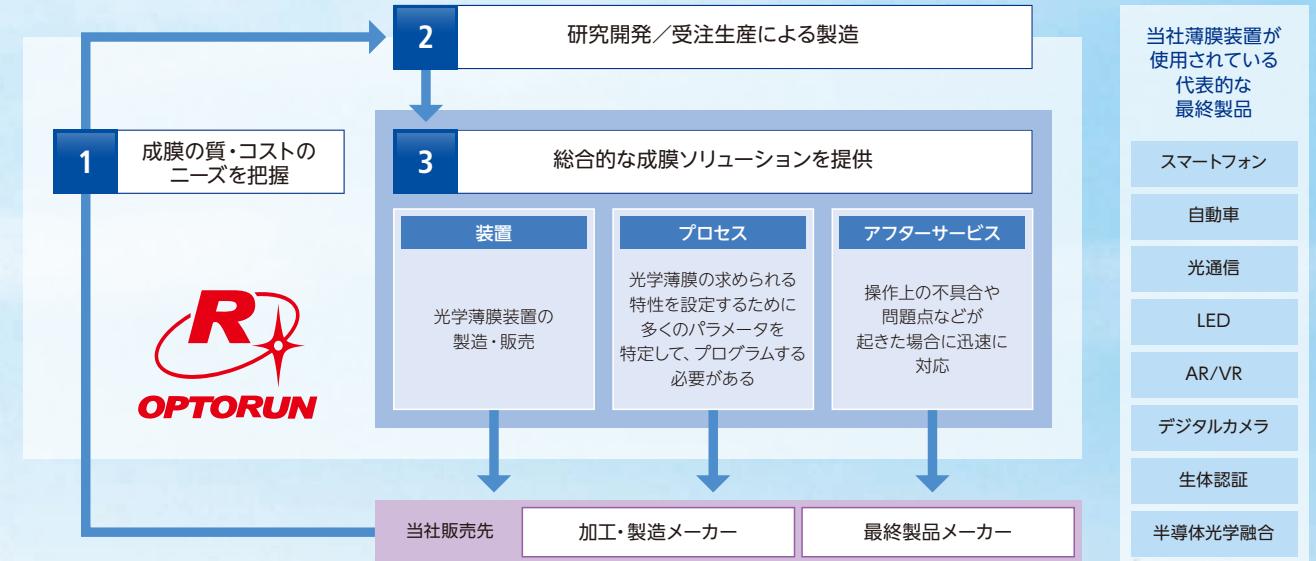
光学薄膜は、レンズ等の各種光学部品の表面にコーティングし、コーティング材料により新しい機能を発揮させます。

バンドパスフィルター 顔認証の赤外線発射・ 反射赤外線の認識の機能	加飾膜 背面ガラスへのカラー加飾膜成膜により、 美しさ・滑りにくさを実現	※ 反射防止膜 (Anti Reflection film/AR膜) の必要性について ■ たとえばカメラモジュールの場合... <table border="1"> <tr> <td>AR膜無</td> <td>AR膜有</td> </tr> <tr> <td>カメラレンズモジュールは、 レンズ数枚で構成されており、 光がレンズを通過するごとに反射 → 光量が失われる</td> <td>AR膜により、 光のレンズ透過率が高まる → 鮮明な画像を 得ることが出来る</td> </tr> </table>	AR膜無	AR膜有	カメラレンズモジュールは、 レンズ数枚で構成されており、 光がレンズを通過するごとに反射 → 光量が失われる	AR膜により、 光のレンズ透過率が高まる → 鮮明な画像を 得ることが出来る
AR膜無	AR膜有					
カメラレンズモジュールは、 レンズ数枚で構成されており、 光がレンズを通過するごとに反射 → 光量が失われる	AR膜により、 光のレンズ透過率が高まる → 鮮明な画像を 得ることが出来る					
反射防止膜 ガラス表面の反射を低減させる膜	防汚膜 ガラス表面の汚れを防止する膜 等々、用途に応じ様々な膜がある。					

■ スマートフォン成膜例
当社の成膜技術はスマートフォンに不可欠な多くの機能の実現に寄与しています

オプトランの事業

常に最先端の顧客ニーズを把握して対応する成膜ソリューション (装置製造販売、プロセス設定、アフターサービス) の提供企業です。





代表取締役
社長執行役員 林 為平

オプトランは
東京証券取引所市場第一部に
上場いたしました。
研究開発型企业として、
新たな技術で光学薄膜装置の
応用分野拡大に挑戦し続けます。

q1 貴社の歩みを簡単に教えてください。

当社の上場に関し、株主の皆様をはじめ、これまで当社を支えていただいた方々に心より感謝申し上げます。上場を、今後のさらなる成長の出発点と認識し、企業価値の最大化を目指してまいります。

当社は1999年の創業から間もない頃に、世界で3社だけの光通信向け光学薄膜装置の開発に成功しました。これを出発点とし、技術面での高い競争優位性を活かし、世界の市場をリードする研究開発型企业として確かな地位を築いております。

q2 技術革新のスピードが速く競争環境も厳しい状況の中で、常に業界をリードしている理由は何ですか？

研究開発型企业として、日本本社の統括の下で、上海・台湾・米国シリコンバレーでお客様の近くに工場・研究開発拠点および営業拠点を設置し、お客様の技術的要求に迅速に応え装置を開発し、お客様工場への装置設置後も、成膜プロセスに関するアドバイスを綿密に行い生産の短期の立ち上げを実現してきたことが、当社へのお客様の装置発注につながってきたと思います。

当社はアジアおよび米国シリコンバレーにおいて、研究開発・生産・マーケティングを横断的に行う事業体制

を作り、各拠点に専門スタッフを配置することで、お客様への密接なコンタクトを行い、成膜プロセスアドバイスを十分行うことで、強味を發揮してきました。光学薄膜装置+成膜アドバイスを提供し、総合的な光学薄膜ソリューションビジネスを展開してきたわけです。

q3 これまでの事業の推移を教えてください。

当社創立当初は光通信のブームが起こり、光ファイバーによる多重伝送関連設備投資が生まれました。これに対応した最難度の光学薄膜装置を開発・販売したのが出発点です。その後、デジタル家電のデジタルカメラやプロジェクター関連需要が盛り上がり、当社は素早く技術的対応を行い、最も技術的にレベルの高い光学薄膜装置を市場に供給しました。2010年頃からは、当社が新たに開発したLED照明の光量を増すことが可能となる光学薄膜装置で市場を創出しました。その後、スマートフォン市場が急拡大したため、当社はスパッタ装置を新たに開発し、生体認証や筐体背面等への光学薄膜応用を通じて、今日の高性能スマートフォンの出現に貢献してきました。

時代により、装置への市場のニーズは変わりますが、常に技術的に最高水準の光学薄膜装置を開発・生産し、お客様のニーズにグローバルに答えてまいりました。

q4 今後の成長に向けた戦略や展望をお聞かせください。

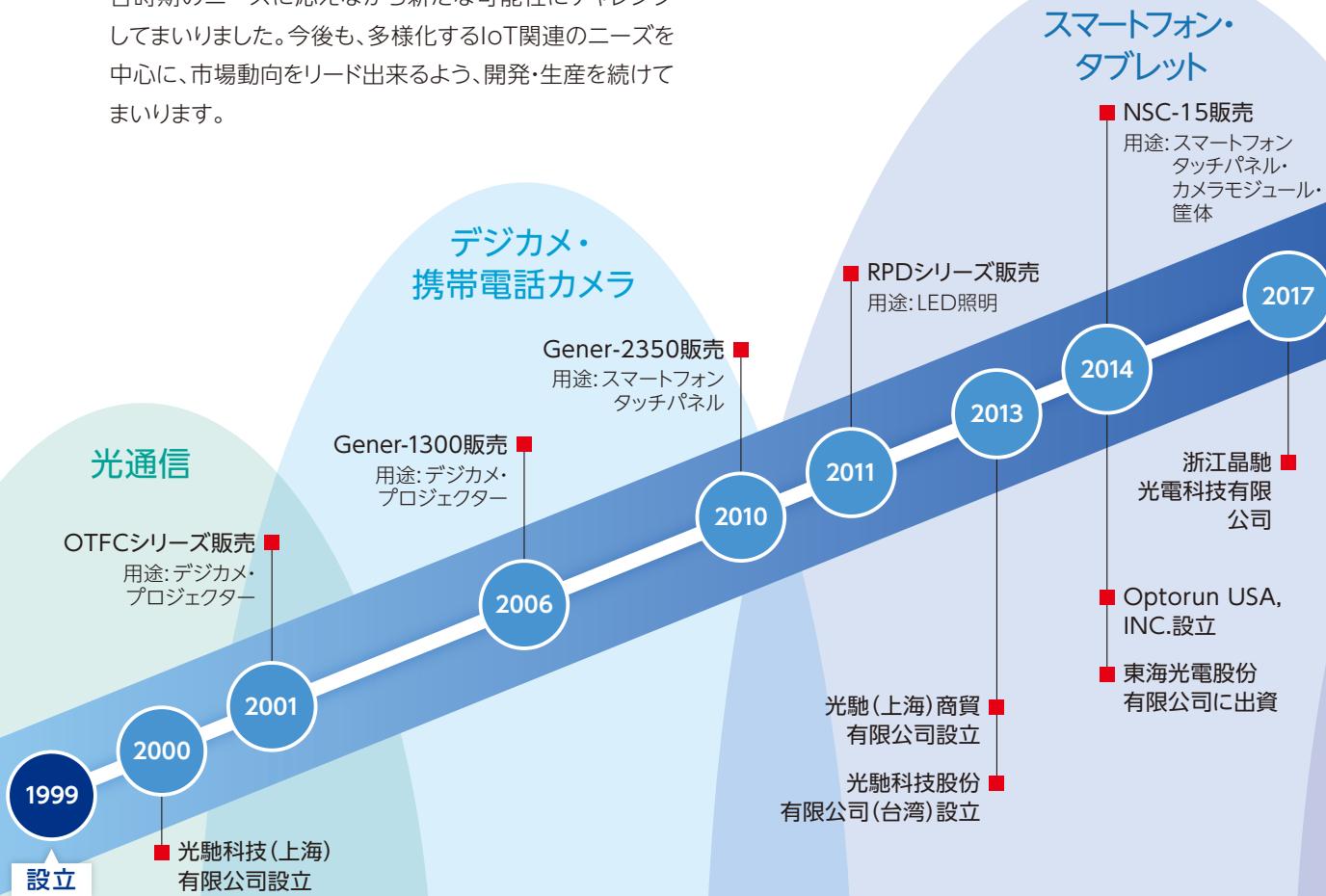
時代は今、IoT時代を迎えつつあります。IoT分野は多岐にわたりますが、ほとんどの分野で光学センサーやレンズが使われます。これは、当社の光学薄膜技術に対する新たなニーズの急速な拡大を意味しています。中でも、自動運転や衝突防止のための赤外線センサーやダッシュボードの表示の進化に対応するために光学薄膜成膜が必要な車載関連や、生体認証、医療関連等に必要AR/VR(拡張現実/仮想現実)、小型化・薄型化を求められている半導体等の市場の急速な拡大が予想されます。当社グループは、IoT分野への光学薄膜技術応用を加速し、研究開発を強化し、さらなる成長を目指します。

また、事業基盤をさらに強固なものとするため、日本・中国・台湾・米国の拠点横断的な研究開発機能・マーケティング力の強化、グローバルな人材採用による体制強化を図ります。

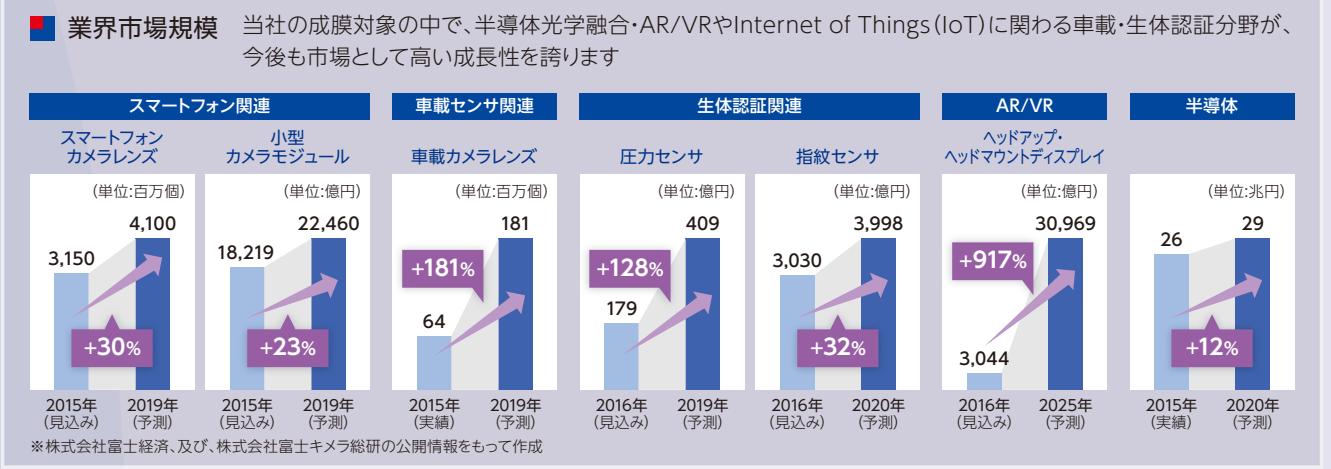
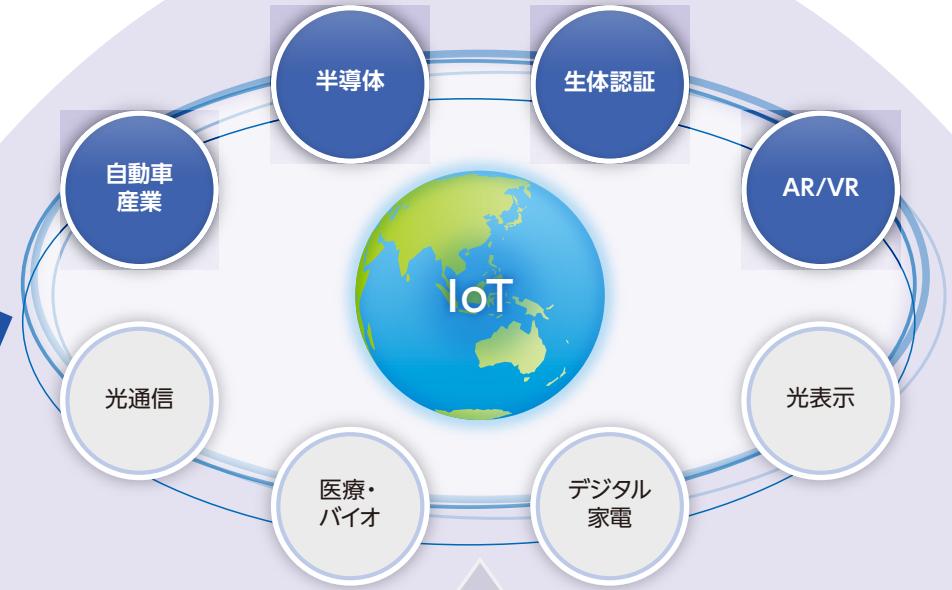
株主の皆様には、当社の成長にご期待いただき、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

多様化するIoT関連の成膜ニーズに応えることで、 新分野の拡大を目指します

設立以来、デジタル光学の発展に貢献することを標榜し、各時期のニーズに応えながら新たな可能性にチャレンジしてまいりました。今後も、多様化するIoT関連のニーズを中心に、市場動向をリード出来るよう、開発・生産を続けてまいります。

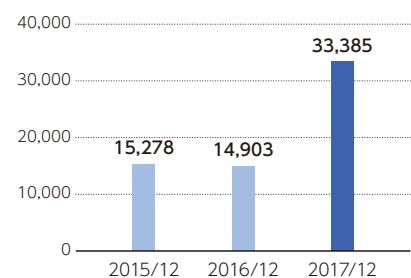


これからの多様化するニーズに対応



連結財務ハイライト

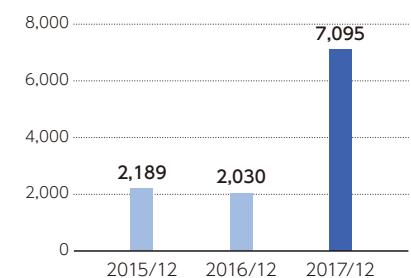
売上高 (百万円)



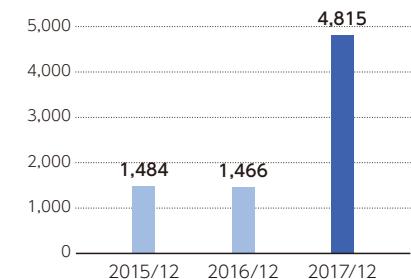
受注高 (百万円)



経常利益 (百万円)



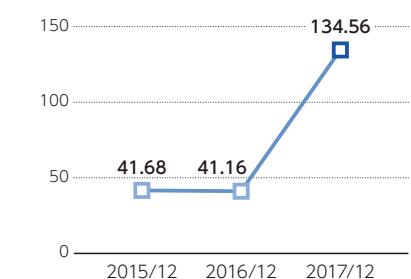
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



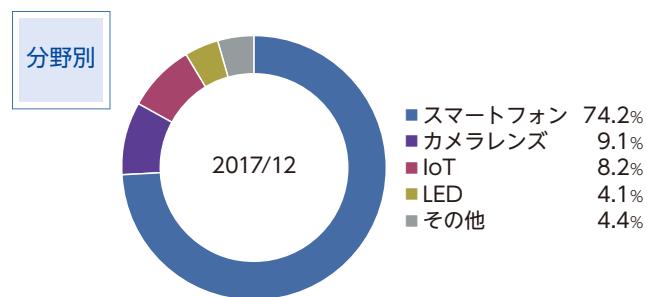
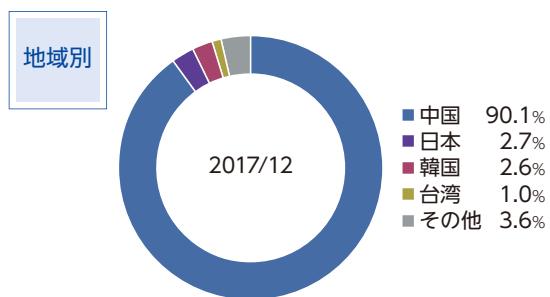
純資産／総資産 (百万円)



一株当たり当期純利益 (円)



地域別・分野別の売上構成比



要約連結財務諸表

貸借対照表 (百万円)

	2016/12	2017/12
資産の部		
流動資産	20,173	52,255
固定資産	1,556	4,169
有形固定資産	1,262	2,862
無形固定資産	29	81
投資その他の資産	265	1,226
資産合計	21,730	56,425
負債の部		
流動負債	9,580	32,038
固定負債	1,516	1,780
負債合計	11,096	33,818
純資産の部		
株主資本	10,368	22,097
資本金	400	400
資本剰余金	2,495	9,052
利益剰余金	8,388	12,871
純資産合計	10,633	22,606
負債純資産合計	21,730	56,425

損益計算書 (百万円)

	2016/12	2017/12
売上高	14,903	33,385
売上原価	9,885	19,231
売上総利益	5,017	14,154
販売費及び一般管理費	2,637	6,826
営業利益	2,380	7,327
営業外収益	64	139
営業外費用	414	371
経常利益	2,030	7,095
特別利益	15	31
税金等調整前当期純利益	2,045	7,126
法人税、住民税及び事業税	473	2,461
法人税等調整額	108	△ 152
親会社株主に帰属する当期純利益	1,466	4,815

キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

	2016/12	2017/12
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,940	4,695
投資活動によるキャッシュ・フロー	928	△ 2,768
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,458	12,446
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	224	14,536
現金及び現金同等物の期首残高	5,132	5,357
現金及び現金同等物の期末残高	5,357	19,893

株式情報

(2017年12月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 177,432,000株
 発行済株式総数 44,358,000株
 株主数 7,147名

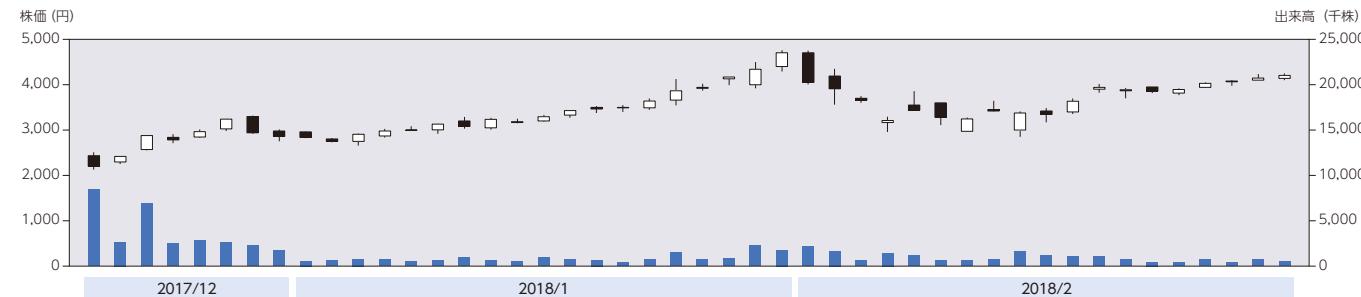
大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
浙江水晶光电科技股份有限公司	8,196	20.04
株式会社アルバック	4,938	12.07
孫 大雄	3,030	7.41
JSR株式会社	2,310	5.65
大和PIパートナーズ株式会社	1,500	3.67
CERNOBBIO INVESTMENT LTD	1,338	3.27
理研電線株式会社	1,275	3.12
肖 連豊	978	2.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	957	2.34
潘 芳興	900	2.20

(注) 1. 当社は、自己株式を3,450千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株価・出来高の推移(日足)

※2017年12月20日株式上市



会社情報

(2017年12月31日現在)

会社概要

商号 株式会社 オプトラン
 (OPTORUN Co.,Ltd.)
 所在 埼玉県川越市竹野10番地1
 設立 1999年8月25日
 資本金 400百万円
 事業内容 光学薄膜装置等の製造販売
 従業員数 639人
 グループ会社 子会社4社、持分法適用会社2社

役員 (2018年3月28日現在)

取締役	執行役員
代表取締役会長	孫 大雄
代表取締役社長	林 為平
取締役	高橋 俊典
取締役	林 敏*
取締役	島田 鉄也*
取締役	樋口 武*
取締役	山崎 直子*
監査役	小林 信一
監査役	清野 英夫*
監査役	齋 建初*

*は社外

拠点ネットワーク

